

5月16日のウクライナ情報

安齋育郎

① ウクライナ軍、ハリコフ州 2 地域で部隊後退 ロシアが攻勢強める By Vitalii Hnidiy, Ivan Lyubysh-Kirdey、Yuliia Dysa(2024年5月15日)

【ボウチャンスク近郊(ウクライナ) 14日 ロイター】 - ウクライナ軍は14日、北東部ハリコフ州でロシア軍が攻勢を強めたことを受け、州の2つの地域で部隊を新たな陣地まで後退させたと明らかにした。また、同州の北側、スムイ州近くでロシア軍が兵力を増強させているとして警戒感を示した。

ロシア軍は10日にハリコフで地上攻撃を開始したばかりで、スムイ州に越境攻撃を仕掛ければウクライナの防衛力をさらに消耗させることになる。

ロシアは14日、国境地帯で10番目の集落を制圧したと発表した。ロシア国境から5キロのボウチャンスクの警察は、北側で砲撃の応酬があったとした。

ウクライナ軍参謀本部は、ハリコフ州ルキャンツィとボウチャンスクにいた部隊が、ロシア軍の砲撃や襲撃を受け、兵士などの損失を回避できる位置に移動したと表明した。

ボウチャンスクやその周辺からは7500人以上の市民が避難している。

ウクライナ国防省のブダノフ情報総局長は、ロシア軍が既にハリコフ攻撃に国境地帯にいた全兵力を投入したと指摘。数日以内に予備兵力も動員すると予想した。

ウクライナ第2の都市ハリコフについては、ロシア軍には制圧に十分な兵士数がないとウクライナ政府高官はみている。



5月14日、ウクライナ軍は、北東部ハリコフ州でロシア軍が攻勢を強めたことを受け、州の2つの地域で部隊を新たな陣地まで後退させたと明らかにした。写真は同日、ハリコフへ避難するためバスに乗るボウチャンスクの住民(2024年 ロイター/Valentyn Ogirenko)

https://jp.reuters.com/world/ukraine/QVCFN527JRI3HJU776DVGVM3WM-2024-05-14/?taid=664428bdec834500019e888a&utm_campaign=trueAnthem%3A%20Trending%20Content&utm_medium=trueAnthem&utm_source=twitter&s=09

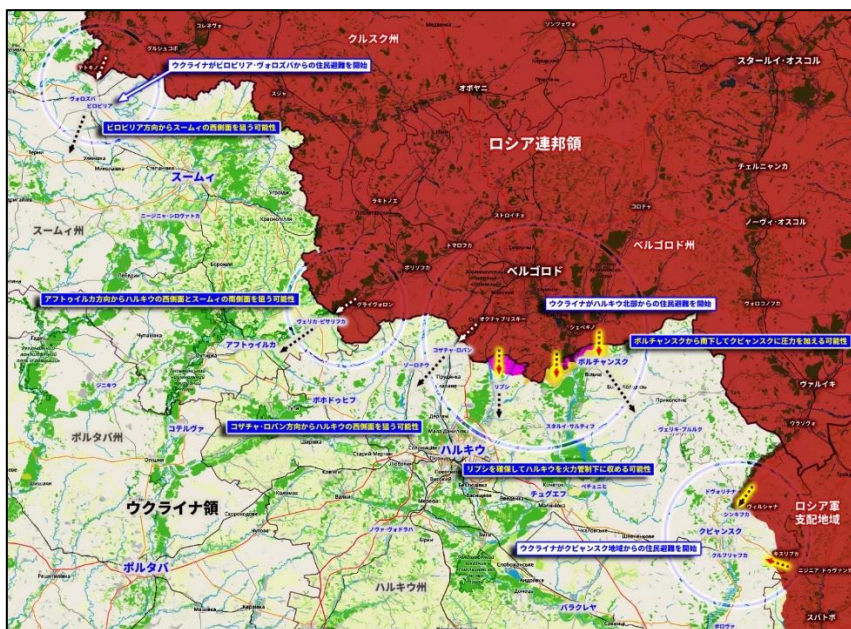
② ロシア軍によるスームィ州侵攻の可能性、国境地域で住民避難が始まる(2024年5月14日)



ウクライナ人軍事アナリストのオレクサンドル・ムシエンコ氏は「ロシア軍がスームィ州に対する攻勢を準備しているかもしれない」と警告していたが、ウクライナメディアは「スームィ州の国境地域で住民の避難が始まった」と報じている。

この問題だけは完全にウクライナ側の怠慢で、その代償は兵士の血で支払われることになる

RBC-Ukraine の取材に応じたウクライナ人軍事アナリスト＝オレクサンドル・ムシエンコ氏は「敵の攻勢阻止に失敗すればボルチャンスク方向のロシア軍はビリィ・コロディアズに進むだろう。さらにリプシ周辺まで前進を許すとハルキウの北部郊外と東郊外が敵の砲撃圏内に収まってしまうと理解すべきだ。ロシア軍はオクチャブリスキーからコザチャ・ロパン、グライヴォロンからヴェリカ・ピサリフカやアフトウシルカへの攻勢を準備しているかもしれない」と警告。



出典:管理人作成(クリックで拡大可能)

ボルチャンスク方向からビリィ・コロディアズへの前進はクピャンスク方面への圧力、リプシ方向への前進はハルキウに対する圧力、コザチャ・ロパン方向の前進はハルキウの西側面に対する圧力、アフトゥイルカ方向への前進はハルキウの西側面とスームィの南側面に対する圧力として作用し、現在のウクライナ軍に致命的な問題を引き起こすかもしれない。

ウクライナは動員法改正案の可決に半年以上も時間を浪費してしまい、昨年夏の攻勢、アウディーイウカを巡る戦い、チャンブ・ヤールを巡る戦いで被った人的損失の穴は埋められておらず、慢性的な兵士不足に陥ったウクライナ軍はドネツク方面の攻勢にジリジリと後退を余儀なくされているのだが、ここに振り向けるべき戦力がハルキウ方向に転用されればドネツク方面が苦しくなるのは誰の目にも明らかだ。



出典:СИРСЬКИЙ

要するにロシア軍の狙いは「数が多い方が有利な戦い」をウクライナ軍に強要することで、ハルキウ方面で軍事的な成功を収めるかどうかは副次的な要素に過ぎず、戦場の主導権を失っているウクライナ軍にとっては「ロシア軍に有利な戦いに付き合うか」「領土を放棄して時間を稼ぐか」の2択しかない。

ムシエンコ氏の警告が当たるかどうかは不明だが、ウクライナメディアは「スームィ州のヴォロズバやビロピリアでは住民の避難が始まった」と報じており、ロシア人らは「スームィ方面でも何かが起こるかもしれない」と言い始めている。



出典:Генеральный штаб ЗСУ

武器不足は米支援の停滞に原因があり、これをウクライナ人の努力だけでカバーするのは不可能な話だ。

しかし、兵士不足は半年以上も前から予見され、前線で戦う兵士、指揮官、アナリスト、メディアが何度も警告していた問題で、これはウクライナ人自身にしか解決できないため動員遅延の代償は兵士の血で支払われることとなる。

追記:ウクライナ国防省情報総局のブダノフ中將は New York Times の取材に「ロシア軍がスームイ州で新たな攻勢を開始するかもしれない」と述べた。

https://grandfleet.info/war-situation-in-ukraine/possibility-of-russian-military-invasion-of-sumy-oblast-evacuation-of-residents-begins-in-border-areas/?s=09#google_vignette

③ウクライナにとっては今後数ヶ月が正念場、動員は必要＝米務長官(2024年5月15日)



先にウクライナを電撃訪問したブリンケン務長官はキエフ工科大学で講演し、ロシアによる特別軍事作戦の展開について言及、今後数カ月はウクライナに多くの試練を要求すると語った。

ブリンケン務長官は講演の中で、「我々は危機的瞬間にある」と語った。ロシア側は「ハリコフ、そして東部で新たな攻勢を構築」しており、「今後数週間、数か月はウクライナに多くのことを要求する」と指摘し、動員の必要性について言及した。「最近の動員は難しい決断だったが、必要なことだった」とし、これによりより強大なロシア軍に対峙する上での追加部隊が軍に提供されることになることと付け加えた。

ブリンケン務長官はキエフに到着後、戦況や軍事支援の問題についてウクライナ側と協議した。会談でゼレンスキー氏は、ハリコフ州向けに追加で2基の対空システム「パトリオット」を要請した。また、ウクライナは他国による安全保障の提供を必要としているとし、できるだけ多くの国を6月に開催される「平和サミット」に誘致する必要性を訴えた。

<https://sputniknews.jp/20240515/18404110.html>

④特別軍事作戦 5月14日の概要 露国防省(2024年5月14日)

ロシア国防省は、特別軍事作戦の進捗状況に関する日報を発表した。スプートニクが最も重要な項

目をまとめた。

●ロシア軍「セーヴェル」(北方面)隊は過去 24 時間でハリコフ州ブグロヴァトカ村を解放し、敵の防衛ゾーンの深部に進軍し、1 度の反攻を撃退した。ウクライナ軍は最多で 135 人の人員と装甲戦闘車 2 台を失った。

●ロシア軍「ツェントル」(中央方面)隊は過去 24 時間でウクライナ軍の 5 度の反攻を退けた。ウクライナ軍は最多で 120 人の人員と、装甲戦闘車 2 台、ソ連製の D-20 152mm 榴弾砲 1 門、ソ連製の D-30 122mm 榴弾砲 1 門、米国製 M119 105mm 榴弾砲 1 門を失った。

●ロシア軍「ユージヌィ」(南方面)隊の戦闘ゾーンでウクライナ軍は過去 24 時間で 520 人以上の人員と、ソ連製の D-20 152mm 榴弾砲 1 門、ソ連製の D-30 122mm 榴弾砲 2 門、ウクライナ製の電子戦システム「ブコヴェリ AD」1 基、米国製対砲兵レーダー AN/TPQ-361 基を失った。

●ロシア軍「ツェントル」(中央方面)隊の戦闘ゾーンでウクライナ軍は過去 24 時間で最多で 405 人の人員と、米開発の M109A6 155mm 自走榴弾砲「パラディン」1 基、ソ連製の D-30 122mm 榴弾砲 1 門を失った。

●ロシア軍「ヴォストーク」(東方面)隊の戦闘ゾーンでウクライナ軍は過去 24 時間で最多で 155 人の人員、装甲輸送車 2 台、ポーランド製自走式榴弾砲 AHS クラブ 2 門、英開発で米国製の M777 155mm 榴弾砲 1 門、車載式の近距離防空ミサイル・システム 9K35 「ストレラー-10」1 基を失った。

●ロシアの対空防衛システムは過去 24 時間でウクライナ軍のドローン 26 機と、仏 AASM 長距離精密誘導ミサイル AASM(ハンマー)を 9 発、米レセイオン社製造の対レーダーミサイル AGM-88 を 2 発、米国製地对地ミサイル MGM-140 ATACMS を 3 発、チェコスロバキア製自走多連装ロケット砲 RM-70 ヴァンパイアとウクライナの多連装ロケット砲「ヴィルハ」から発射された 43 発のロケット弾を迎撃した。

●ロシアの対空防衛システムは露ベルゴロド州上空で、ウクライナ軍がチェコスロバキア製自走多連装ロケット砲 RM-70 ヴァンパイアから発射したロケット弾 25 発を迎撃した。

<https://sputniknews.jp/20240514/514-18400891.html>

⑤魅力的な博物館の展示品に過ぎない米軍の「奇跡の爆撃機」(2024 年 5 月 14 日)



米軍はこのごろ、2022年12月の不時着時に損傷した米戦略爆撃機「B2 スピリット」1機の修理を行わないと発表した。B2が事故で退役するのは2008年の墜落時に続き2機目で、保有数は19機になった。

B2は最も高価な航空機として知られている。これまでの推計では、1機あたりのコストは14億ドル(2200億円)とも、40億ドル(6250億円)ともいわれている。

米国防総省の元アナリストでのカレン・クウィアトコウスキー空軍退役中佐は、スプートニクに対し、B2の運用は2030年までを予定しているが、すでに老朽化で運用性とメンテナンスに疑問が生じていると指摘する。

「直近の事故も、2021年にあった事故も『通常業務中の機体故障』が原因とされている。B2は1980年代に設計され、1997年に初導入された。問題は機器やソフトウェアの劣化という単純なものかもしれない」

B2が使用されることはめったになかったが、約25年前のNATOによるユーゴスラビア侵略で、ベオグラード(現セルビア)の中国大使館を爆撃して有名になった。

今後、退役を迎えるB2の運命について聞くと、クウィアトコウスキー氏はこう答える。

「翼の形は良いし博物館の展示品としては魅力的だ。米軍はアリゾナ州の基地にある『飛行機の墓場』でB2を保管することになるだろう」

<https://sputniknews.jp/20240514/18401036.html>

⑥ パスコフ報道官が留任 パトルシェフ氏はプーチン大統領補佐官に(2024年5月14日)



ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は14日、大統領報道官に現職のドミトリー・パスコフ氏を任命した。露大統領府が発表した。

パスコフ氏はプーチン大統領の1期目から累計して、約20年にわたり報道官職にある。大統領の動静発表や公式見解の代弁などで毎日記者対応に臨み、まさに「クレムリンの顔」としての職務を務める。

国家安全保障会議書記を務めたニコライ・パトルシェフ氏は、大統領補佐官に任命された。国防や諜報、治安対策などの知見や経験を活かし、政策立案や提言、各省庁との調整などを行う。

また、トゥーラ州のアレクセイ・ドゥーミン知事も職責を解任され、新たに大統領補佐官に任命された。

このほか、大統領府のアントン・ワイノ長官、セルゲイ・キリエンコ第1副長官、アレクセイ・グロモフ第1副長官は留任となった。

https://sputniknews.jp/20240514/18398727.html?rcmd_alg=collaboration2

⑦プーチン露大統領 16、17日に中国訪問(2024年5月14日)



ロシア大統領府は14日、ウラジーミル・プーチン大統領が今月16、17日に中国を訪問すると発表した。7日にプーチン大統領が5期目に就任してから、初の外遊となる。

大統領府によると、訪問中には習近平国家主席と首脳会談し、今後の協力分野の策定や地域・グローバル安全保障における喫緊の課題についての議論を行う。会談後には共同声明の発表と複数の協力文書への署名が見込まれる。

<https://sputniknews.jp/20240514/1617-18398479.html>

⑧米国は2025年までに財政破綻 元世界銀行総裁が警告(2024年5月14日)



元世界銀行総裁(2019～2023年)のデイビッド・マルパス氏は、米国政府は高額の公的債務を

抱えながら過剰な支出を行うために、早ければ 2025 年にも財政破綻するという警告を自身の LinkedIn アカウントを通じて発した。

「あらゆる兆候は、2025 年にも財政破局が起きることを示している。2025 年には国債の上限が課され、歳出が増え、税率がぐんと引き上げられるだろう」

マルパス氏の前に、国際通貨基金(IMF)が 2024 年、米国政府の債務は GDP の 123%台を突破するという予測を発表している。IMF の試算では、米国の債務はさらに数年にわたって増え続け、2029 年には GDP の 134%近くに達する。

現在、米国の国家債務はすでに 34 兆ドル(5311 兆円以上)を超えている。

https://sputniknews.jp/20240514/2025-18394978.html?rcmd_alg=collaboration2

⑨ゼレンスキー「ハリコフを守るにはパトリオットシステムが 2 台必要だ」——ゼレンスキーはブリンケンに協力を懇願している(2024 年 5 月 14 日)



「援助パッケージに関する決定は私たちにとって非常に重要でしたが、この援助をできるだけ早く届ける必要があります。

まず第一に、私たちにとって最大の問題である防空システム。ハリコフ地域には 2 つのパトリオットシステムが必要です。なぜなら、人々は絶えず砲撃に苦しみ、我が国の国民はロシアのミサイルに苦しんでいるからです。

また、安全保障と我々にとって非常に重要なサミットについても議論したいと思います。米国だけではなく多くの国の参加が必要です。できるだけ多くの国を和平サミットに参加させるために、バイデン大統領と皆さんの助けが必要です。」

<https://twitter.com/Monmi0614/status/1790386470391521705?s=09>

⑩ロシア軍が急増する中、ウクライナは決戦に臨む(ポリティコ、2024 年 5 月 13 日)

ウクライナ第 2 の都市ハリコフとその周辺地域は、ウラジーミル・プーチンの侵攻軍からの激しい攻撃の波に直面している。この波状攻撃は、戦争の帰趨を左右する決定的な戦いの始まりを意味してい

る。

危機に瀕しているのは、ウクライナの主要な人口集中地区の支配権だけでなく、ウクライナが戦い続けられるかどうかの可能性である：ハリコフが陥落すれば、西側の決意はすぐに揺らぐだろう。

ロシア軍は5月か6月にウクライナ軍の防衛線を突破する大規模な試みを行うと長い間予想されていた。プーチン大統領は、ウクライナ軍の反撃を支援するために、西側諸国の弾薬や武器がさらに到着する前に、この隙を突こうとしているようだ。



ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー(Volodymyr Zelenskyy)大統領は、この地域から約6,000人の避難を命じた。|Roman Pilipey/AFP via Getty Images

日曜日(2024年5月12日)、ロシアはこの地域で2方面の夜明け攻撃を開始し、ハリコフの北30キロの弧を描いて30の町や村の支配権をめぐる激しい戦闘が激化しています。一部の地元当局者は月曜日、ウクライナのメディアに対し、貧弱な要塞がロシア軍の前進を許していると語った。

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー(Volodymyr Zelenskyy)大統領は、この地域から約6,000人の避難を命じた。ハリコフ州知事は、西側諸国の弾薬の送付が遅れたことで、ロシアが優位に立ち、この地域におけるウクライナの防衛力が弱まったと警告した。

ゼレンスキー大統領は、戦闘は「激しかった」が、援軍が送られたと反抗的なメッセージを発した。国境沿いでも前線全体でも、ロシアの攻撃意図をくぐるような方法で、常に占領者を破壊する」と述べた。

ハリコフ州軍政局のオレフ・シニエフボフ長官は、「状況は確かに非常に厳しい」としながらも、この地域は「わが軍によって完全に支配されている」と述べた。

しかし、ロシア国防省は、ロシア軍が最近の戦闘でウクライナに5つの村を占領し、1,500人の死傷者を出したと主張している。

今後数カ月にわたって長期戦が繰り広げられそうな序盤のやり取りをめぐる双方が主張している主張は、独自に検証することはできない。

<https://www.politico.eu/article/ukraine-faces-decisive-battle-as-russian-forces-surge-kharkiv-facing-intense-wave-attacks/?s=09>